



ヒロシマのあ  
る国で



shizune

## 教室

---

葉月：（パソコンを打つ）

あねもねさま～、なんか、変な子がきちゃったよお。

星螺って名前なの。みんな近づかないし。

◆暗転

◆チャイム

先生：今日は、転校生を紹介します。どうぞ。

（ドアを開ける）

星螺：ぼくは、翠川星螺といいます。（黒板に書く）

◇変な名前～、女っぽい～etc

星螺：なんか文句でもありますか？

（きっとなってみんなをにらむ）僕の名前に。

先生：良い名前よね。翠川君の席は・・・

大野さんの隣があいてるから、そこでいいわよね？

葉月：えっ。

星螺：はい。

葉月：やっぱり・・・。誠が転校しなければなあ。

◇葉月、誠君のこと好きだったの？etcひやかし

このあいだに、星螺、席に着く

星螺：よろしく。

葉月：こっちこそ・・・。

先生：一時間目は、数学です。ちゃんとチャイム着席すること。

◇教室の中、急にざわめき etc

星螺：あっ来る。

葉月：なにが？

先生：（突然ドアが開いて顔を出して）ごめ～ん急に美術になったから。美術室に行ってください。

◆えー、はーいetc

星螺：美術室ってどこにあるの？一緒に行ってくれない？

葉月：うっうん。あや～、なつ～、みち～、行こ？

あや：星螺君も一緒なんでしょ。

なつ：あの子ちょっと変じゃない。

あや：名前のこと言ったら、切れるし。訳わかんない。

みち：あんな奴といたら、馬鹿になる。

あや・なつ：だよねえ～。etc

◇ 3人言ってしまう

葉月：は一、

星螺：なんか悪い事したかなあ。あっ危ない。

葉月：えっっ？

◆ 先生にぶつかりそうになる

葉月：あっありがとう。

星螺：どういたしまして。

葉月：超能力がつかえるの。

星螺：まさか。

葉月：だよね。あっ。

◆ チャイム

葉月：大変

星螺：遅刻だあ。走ろう。

なつ：なんか、星螺ってうざくない？

あや：やっば、そう思う？だいたい名前のこと言っただけで、怒る？ふつー。

よこ：冗談通じない男子ってさいってーじゃん？

あや：みんなで、シカトしない？

なつ：いいね～。でも、葉月は、しなそー。

よこ：葉月、好きなんじゃん。星螺のこと。

なつ：まじ～～。も・の・ず・き。

◆ 暗転

## 星螺の家の前

---

### ◆机にスポット

葉月：（パソコンを打つ）

あねもねさま。今日、星螺は休みでした。

隣の席が空いていると楽。

みんなにひやかされなくてすむし・・・

この頃、みんなひどいんだから。

### ◆暗転

葉月：だからって、どうして私がプリント届けなきゃいけないわけ？

家知らないって言ってるのに。

不登校になんかなるわけないっちゅうの。

あれっ。ほんとにここ？

なんか、古くって、お化け屋敷みたい。

### ◆呼び鈴を鳴らす

葉月：いないのかな。

でも、星螺の雰囲気ぴったりの家だな。くく、いい気味。

### ◆強風

葉月：きゃっ！仕方ないか、プリントだけおいて帰ろっと。

### ◆暗転

## 校内

---

### ◆机にスポット

葉月：（パソコンを打つ）

あねもねさま。今日、星螺学校に来たの。  
いつもと同じ、不思議な雰囲気をもとって。  
でも、変なの、わたしに対して・・・。

### ◆暗転

葉月：おはよう。

あや：おっはよう。

なつ：今日も星螺こないといいね。

よこ：ほんと大変だよね。男子なんだから、男子と一緒にいればいいのに、葉月といるんだもん。

なつ：葉月危ないよ。ストーカーかもよ。

葉月：え～、やだあ。

あや：じゃあ、ほっとけば？葉月が優しいから、そんな風になるんじゃない？

うちら、しかとしよーかなって思ってるんだけど・・・

よこ：葉月もするよね？

葉月：えっっ?!・・・。

なつ：やっぱりねえ。

星螺：おはよう。

◇ あや・よこ・なつは無視。

葉月：おっおはよう。

なつ：じゃあね。

◇ 3人、しゃべりながら去る

あや：やっぱりね～。

よこ：しょうがない。

### ◆暗転

## 音楽の時間

---

葉月：（パソコンを打つ）

あねもねさま、こんな事言っちゃいけないのはわかってる。  
でも、星螺ってすごくぶきみで、暗くって...大っきらい。  
なのに、すごく気になるのは...どうしてなのかなあ？

### ◆暗転

先生：来週、歌のテストをします。二人一組または三人一組になってください。

決まったら、前に並んで。

なつ：あや～、よこ～、いっしょにやろおよお。

よこ：うん。

あや：もちろん。

葉月：どうしよう、私、とっても音痴なんだ・・・。

あや～ 一緒に・・・。ダメか、なつは？・・・やっぱり・・・。

誰も音痴とは、やりたくないもんね。一人になっちゃうよ・・・。

星螺：先生、オンナノコと、オトコノコでもいいですか？

先生：もちろん、いいわよ。

星螺：僕と一緒にくまない？

葉月：えっ、いいの？

星螺：僕も余っちゃって・・・。

葉月：でもわたし、音痴だから・・・。

星螺：それじゃあ・・・一緒に練習してやるよ。

## 歌

---

### ◇ 歌〈夏〉

夏よ

街はしずかだった

あの日

父は

おまえの光に

焼かれたという

花は咲き

丘は高く

ひは空を行く

だが夏よ

おまえが印した記憶を

もう誰も思い出さない

焼けていた

すべてが

歩いた

長い道を

何も食わず、何も飲まずに、

父よ

あなたは何を願った

踊れ 踊れ

街を焦がし、街をうめた

光よ

夏の埋み火よ

この胸に宿り

歌え

父の日のように

### ◆暗転

## 数学の時間

---

葉月：（パソコンを打つ）

あねもねさま、ご無沙汰しました。

いろんなことがあったの。

期末テストが有ったりして忙しかったの。

で、報告。歌のテスト、すごくうまくいったの。

不思議とずっと歌えたの。

うれしくてうれしくて、星螺の方を見たら、

彼もわたしのこと見ていたの。

### ◆暗転

先生：大野さん。大野さん。

葉月：は・はい！

先生： $3x + 5y = 4x + 9y$ は？

葉月：わかりません。

先生：きょうは大野さん、上の空ですよ！そんなに数学より大切なことでもあるんですか？

葉月：ごめんなさい。

なつ；あるよねえ～～。お・お・のさん！

あや；きゃ～、せいしゅ～ん。

よこ；実は、葉月って、誰かさんのストーカーなんだって。

あや；まじで～。

よこ；このまえもうちまでおしかけたらしいよ。

なつ；あっぶな～い。

星螺：大丈夫？気にしない。気にしない。

葉月：うん。ありがとう

### ◆暗転



## 橋のたもとで

---

葉月：（パソコンを打つ）

今日ね、星螺休んじゃった。

私、一日中、星螺の机を見てるの。

どうしちゃったんだろう？

足が勝手に、星螺のうちに言ってしまうのはなぜ？

私がストーカーになっちゃったの？

あねもねさま。

何回も、何回も呼び鈴を鳴らしたのに・・・

誰も出てこない。

その分よけい、星螺に会いたくなかったよ。

### ◆チャイム

星螺（追いかけてきて）：今日一緒に帰らない？

葉月：えっ、いいの？

星螺：もちろん。

葉月：へんなの。

星螺：なにが？

葉月：だって

星螺がそんなこと言うなんて思わなかったんだもん。

星螺：そうかなあ。

葉月：うん。でもその方がいい。絶対いい。

星螺：ありがとう。

葉月：どういたしまして。わあ～、きれいな夕焼け。絵の具の赤よりずっときれい。

自然ってどうして、あんなすてきな色が出せるのかしら？ 空って芸術家ね。



あの・・・日・・・

---

星螺：・・・あの・・・日・・・

葉月：あの日？

星螺：あの日と同じ空の色。

葉月：あの日？

星螺：1945年8月6日。

葉月：8月6日？ひろしまに原爆が落とされた日のこと？

星螺：そう、あの日、午前8時15分・・・

葉月：すごい！よくしってんのね。

星螺：うん、あの日も、まるで空が燃えているみたいだった。

葉月：・・・

星螺：あの日、暑かったよ、朝から。僕は・・・あの日・・・

葉月：あ・あたしも本で読んだことある。

このあたりの川にも、たくさんの人が、  
おぼれて、死んでいったんだってね。

星螺：そ・そうだね。きっと、何万人という人が・・・

でも・・・僕は・・・あの日

葉月：どうして、そんな暗い話ばかりするの？

せっかく、

星螺と本気で仲良くなれそうって思ったのに

星螺：ご・ごめん！また、あした。さいならっ～

◆暗転

## 星螺の家に行く

---

葉月：（パソコンを打つ）

あねもねさま。

星螺は、星螺は、私なんて見ていないの・・・。

昨日、星螺は、とても暗い目をしていた。

やっと星螺とつきあえると思っていたのに。

彼ったらね、わたしのことなんか見ていないの。

彼の視線の向こうには、原爆ドームがあった。

私のずーとむこうを、ずっとむこうを見てる。

笑ってると時も・・・。悲しい目をしている。

◆暗転

◆呼び鈴を鳴らす

葉月：やっぱり、誰もいないのかな。

洗濯物も干してないし、窓のカーテンは・・・

これ焦げたあと？

星螺：（後ろから）大野さん、どうしたの？

葉月：あっ、星螺・・・

星螺：うちに来てくれたの？

葉月：うん。

星螺：昨日はごめんね・・・

葉月：そうじゃなくて、わたしの方こそ・・・

星螺：うちはなんだから・・・ちょっと、外歩かない？

葉月：うん。

## 公園の碑

---

### ◆ 公園の碑の側で

葉月：（碑文を読む）

『大き骨は先生ならむ そのそばに 小さきあまたの骨あつまれり』・・

あまた？あまたの骨？どんな意味なのかしら？

星螺：ここでたくさん子どもたちが亡くなったんだよ。そのこどもたちの小さな骨がたくさん  
たくさん・・・・

葉月：むごいことね・・・

星螺：（碑文を読む）『目玉飛びでて盲となりし 学童かさなり死にぬ橋のたもとに』

葉月：この橋のたもってこと？

星螺：そうだよ。君の家には被爆した家族はいないの？

葉月：ええっ？ああ、私お父さんの転勤で、去年、東京から広島にきたから。

星螺：そうだったのか。

葉月：そうよ、あなたと同じ転校生ってわけ。

星螺：そっか・・

葉月：そうよ。だから、なんにも知らないの。ごめんね。星螺のこと暗いとか思ってた・・・

星螺：気にするなよ。君には僕のことをちゃんと見えていたから・・・

葉月：えっ？ 星螺どうしたの？顔青いよ？

星螺：大丈夫だよ。川へ行こう。

葉月：暑いね。（横に並ぶ）

星螺：ああ、あの日もそうだった。

トンボが目の前の堀に止まった。僕は立ち上がり、帽子をとった。

あれは手を伸ばしたときだった。目の前が真っ白になったんだ。

突然だった。なんにもかもが一瞬にして・・ なんにもかもが無になった・・・

葉月：星螺って、詩人みたい。

星螺：そうかなあ？

葉月：歌のテストありがとう！

星螺：僕の方こそ、ありがとう！

葉月：また、一緒に歌おうね。

星螺：・・・・・うん。きっと。

葉月：じゃあ、また明日学校で。

星螺：さようなら。

◇ 二人握手

◆ 暗転

葉月：（パソコンを打つ）

あねもねさま。

星螺はどこにもいません。

誰に聞いても星螺なんて知らないって言うんです。

「だいたいそんなおかしな名前なんてないだろう」

って兄は馬鹿にします。

弟は「いつも夢見るお姉さまお姉さまはないものを見る」って。

お母さんは「おやおや、恋に恋して、恋煩い」って冷やしっぺを取り替えます。

父は「馬鹿につける薬はないな。学校の勉強をちゃんとしろ！」

あねもねさま。教えてください。

星螺はどこにいますか。

## わかったの

---

葉月：（パソコンを打つ）

あねもねさま。今日、登校日でした。

図書室で絵本の読み聞かせがありました。

先生が

「暑いですね。でも、あの日も暑かったのです」って言ったとき  
わたし叫びそうになったんです。

星螺がいつも言っていた「あの日」。

星螺に会いました。

星螺はトンボを捕まえようと手を伸ばしたんです。

原爆が星螺のすべてを奪ったのです。

星螺のことは、誰も、もう覚えてはいない。

誰もかもが

何十年前に終わってしまったことと思っている。

だけど、私はちゃんと覚えている。

星螺のことも、星螺と過ごした時間のことも。

そして、今は星螺が言いたかったことも、ちゃんとわかる。

そして、あまたの星螺たちの命と引き替えに、

今、平和の光を灯さなければいけないと言うことを・・・。

## 歌：ヒロシマのある国で

---

### ◇ 歌〈ヒロシマの有る国で〉

八月の青空に 今もこだまするのは  
若き詩人の叫び 遠き被爆者の声  
あなたに感じますか 手のひらの温もりが  
人の悔し涙が 生き続ける苦しみが  
わたしの国とかの国の 人の生命 (いのち)は同じ  
このあおい大地のうえに同じ生を得たのに

※ヒロシマの有る国で

しなければならぬことは  
ともるいくさの火種を  
消すことだろう

かの南の国では 大国がのしかかり  
かもくな少年らが 重い銃に身をやく  
やせた母の胸に 乳のみ子が泣きさけび  
はだしではだかのまま 逃げまどう子どもたち  
故国の土をふむことも 家族と暮らすことも  
許されない戦争がなぜに今も起こる

※ くりかえし

私の国とかの国の 人の生命 (いのち)は同じ(平等)  
このあおい大地の上に同じ生を得たのに

〔完〕